

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 岡田美津子

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	印	経理責任者	
視 察 議 員	岡田美津子			
期 間	平成元年 10 月 29 日（火 ）～平成元年 10 月 31 日（木 ）			
視 察 先	福岡県大野城市			
視 察 用 務	公共サービス DOCK 事業（これまでの取り組みについて）			
視察先対応者	企画制作部・自治戦略課・経営戦略担当係長 中原 英貴様			
概要及び所見	<p>1 公共サービス DOCK 事業について</p> <p>大野城市では、多面的に行政評価（診断）を行うシステム「公共サービス DOCK 事業」を行っており、D は誰でも・O はオープンに・C はチェックできる・K は環境づくりを構築し質の高い行政サービスの提供と効果的な行政経営をめざしています。</p> <p>近年、自治体を取り巻く環境の悪化に伴い自治体経営は改革を迫られております。そのような中、大野城市では活力ある市として、民間経営感覚を取り入れた、成果主義の推進とスクラップ&ビルド方式による行政経営の転換を目指し、更なる市民サービスの向上と業務の効率化を実現するための本市独自の統合型評価システム「公共サービス DOCK 事業」を平成 19 年から始めておられます。</p> <p>その中身で特に関心を持ったのが、大学教授や公認会計士・企業経営者などで構成される「公共サービス改革委員会の設置」や「市役所の仕事の見える化」での事業の診断です。又、行政経営の PDCA サイクルや市民参画も重要とされ、多いに参考になりました。</p>			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 岡田美津子

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	印	経理責任者	印
視 察 議 員	岡田美津子			
期 間	令和元年 10 月 29 日（火）～令和元年 10 月 31 日（木）			
視 察 先	宮崎県西臼杵郡 高千穂あまてらす鉄道 株式会社			
視 察 用 務	廃線鉄道の利活用事業の成功例の視察			
視察先対応者	齋藤 拓由 様			
概要及び所見	<p>鳥根県江津市の江津駅から我が三次駅をむすんでいた「三江線」が廃止になって2年、NPO 法人により一部再利活用が進められていますがそのような状況の中、先進地事例を…と「高千穂あまてらす鉄道」におじゃましました。</p> <p>旧国鉄時代から70年続いた高千穂鉄道、2005年には台風14号の被害にあい完全廃線になりましたが、今では「高千穂あまてらす鉄道株式会社」が立ち上がり、廃線となったトンネルや橋・ホームを活用し、今では高千穂の観光スポットとなっています。</p> <p>しかし、ここまでの道のりは決して平たんではなく、様々な苦勞があり乗り越え、今に至っているというお話を伺いました。平成27年からは黒字経営になっているが、それ以上に維持管理に多額の費用がかかる事が今後の課題だと話しておられました。</p> <p>実際乗ってみて、大変スリルがあり、又、トンネルでのイルミネーションなど様々な工夫が楽しかったです。古いものを伝え続ける大切さとその現実の大変さを感じましたが、こうゆう夢は大切だと思います</p>			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 岡田美津子

下記のとおり、視察が終了したので報告します。



	会派代表者	印	経理責任者	
視 察 議 員	岡田美津子			
期 間	令和元年 10 月 29 日（火）～令和元年 10 月 31 日（木）			
視 察 先	福岡県うきは市			
視 察 用 務	アプリ機能をフル活用し人が集まる（仕掛け）づくりについて			
視察先対応者	うきはブランド推進課 課長 樋口秀吉 様			
概要及び所見	<p>うきは市は福岡県の南東部に位置し、大分県との県境にあります。四季を通じてフルーツに恵まれており、そのせいか人口あたりのスイーツ店の数が日本一という、羨ましい町です。</p> <p>今回の視察は、SNS 観光アプリ「おさんぼうきは」を使い、観光の情報発信を行っている取り組みを学びに行きました。ICT の新技術の活用で、他の地域との差別化で地域の観光知名度・イメージ向上、来訪者数と観光収入の増加を目指しています。</p> <p>又、観光のターゲットを 20 代～40 代の女性にあてて取り組んでいますが、これが全世代へと広がっていくコツだとのお話でした。この観点はわが市にも応用して頂きたい取り組みです。</p> <p>観光 ICT 教育にも取り組んでおられ、子どもたちも率先してうきは市の観光 PR を行っていました。</p> <p>「道の駅うきは」にも寄ってみました品ぞろえが豊富です。さすがじゃらん道の駅ランキング（九州・山口）で一位。国土交通省の重点道の駅にも選定されているそうです。ついつい買ってしまいます。</p>			

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 黒木靖治 

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視察議員	黒木靖治			
期 間	令和 1 年 10 月 29 日 (火) ～ 令和 1 年 10 月 31 日 (木)			
視 察 先	・福岡県大野城市 ・宮崎県西臼杵郡 ・福岡県うきは市			
視 察 用 務	・福岡県大野城市 (公共サービスDOC事業これまでの取り組み)			
	・宮崎県西臼杵郡 (高千穂あまてらす鉄道:廃線鉄道の利活用事業)			
	・福岡県うきは市 (アプリ機能を活用した仕掛けづくりについて)			
視察先対応者	・福岡県大野城市 (企画制作部・自治戦略課・経営戦略担当 中原英貴 係長)			
	・宮崎県西臼杵郡 (齋藤拓由 さん)			
	・福岡県うきは市 (うきはブランド推進課 樋口秀吉 課長ほか)			
概要及び所見	○ 10月29日(火)			
	・福岡県大野城市 (人口 100,962人、世帯数43,874、面積26.89km ²)			
	大野城市は、福岡市の南部に位置し、筑後方面へ抜ける交通の要所にあたり大野城市			
	の名称は、天智天皇4年大野山に築いたわが国最古の朝鮮式山城「大野城」に由来する。			
	牛頸窯古墳群は、須恵器の生産と製品の広がりを知るうえで欠くことのできない重要な遺跡			
	として、平成21年12カ所が「牛頸須恵器窯跡」として国史跡に指定されている。			
	【視察内容】公共サービスDÖCK 事業について			
	大野市では、地方自治体の経営環境が厳しさを増している中で、市民サービスの向上と			
	業務効率化を実現するための市独自の統合型行政評価システム「公共事業サービス			
DÖCK事業」を行っていて、Dは誰でも・Oはオープンに・Cはチェックできる・Kは				
環境づくりを構築して民間経営理念を採り入れたより質の高い行政サービスの提供と効果				
的な行政経営を進めている。				

また、公共サービスの質の向上と行政経営の効率化を図るため、市民満足度、財務、業務プロセス、人材育成と活用の面から業務を検証するため第三者評価による診断体制「大学教授・公認会計士・企業経営者・社会保険労務士・接遇インストラクター・公募市民委員・コンサルタント」の公共サービス改革委員会8名の構成で年4回開催されている。

【 初 見 】

三次市においても財政が一段と厳しくなる中で、公共施設管理維持費問題があり、行政として公共施設削減計画等が策定されているが実施スピードが大変遅い。職員の意識改革が遅れていると思う。市役所の仕事を見える化をし、市民のための行政であることを職員だけでなく議員も共通認識に立って行政をしっかりとチェックしていきたい。

○ 10月30日(水):宮崎県西臼杵郡(高千穂あまてらす鉄道 株式会社)

【視察内容】 廃線路線の利活用事業の成功例

島根県江津市の江津駅から三次駅を運航していた「三江線」が2年前廃止になりNPO法人により一部の路線を利活用した地域活性化の事業が進められている中で「高千穂あまてらす鉄道」を視察しました。

国鉄時代から70年続いた高千穂鉄道は、2005年に台風14号の被害にあい廃線になり現在は、「高千穂あまてらす鉄道株式会社」が町の助成を活用しながら廃線となった路線やトンネル・橋・駅を活用されて運行されている。、現在では高千穂の観光のスポットになっていて東南アジアからの観光客も増えてきている。

現在の状況になるまで、関係者の方がいろいろと苦勞をされて今があるという話を伺いました。平成27年から黒字経営であるが、維持管理費が多くかかっている課題になっていると話をしてくださいました。

概要及び所見

【 初 見 】

三次市においても「三江線」の活用の構想がありますが、運営経費の問題等があり「高千穂あまてらす鉄道」も参考になりますが、10年・20年後の事も考えた上で進めていく必要があると考えます。

実現できるかどうかは別として、夢を描くことは重要な事だと思います。

○ 10月31日(木)

福岡県うきは市（人口 29,572人、世帯数 11,083、面積 117,46km²）

福岡県の南東部に位置し、北は朝倉市、西は久留米市、南は八女市星野村と大分県日田市、東は大分県日田市と接している。

耳納連山を源流とする巨瀬川、小塩川、隈上川が市内部を流れ、筑後川に流れ込んでいる。

平坦部は肥沃な水田地帯が広がり、山麓部には果樹地帯が形成され、山間部は棚田などを含む森林となっています。

平成28年度からは、フルーツを中心とした市内農産物の農業生産に向け「うきはブランド」の構築を進めている。

【視察内容】 アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて

観光情報発信として、マスコミへの情報発信（広報課と連携：テレビ取材・ラジオ取材）

情報誌への掲載（県や近隣市町と連携）、SNS等を活用した情報発信を行っている。

特に、SNSを活用した観光アプリ「おさんぽうきは」を使い、うきは市公式キャラクター

「うきぴー」のSNS（フェイスブック、インスタ、ツイッター：フォロワー数3,000以上）

うきは市は、ICT新技術活用で他地域と差別化、うきは市のブランドづくりや地域の観光知名度・イメージ向上、来訪者数や観光収入の増加を目指し、アプリ開発プロジェクトにより、地域の観光情報が自動的に来訪者に届く仕組みを実現している。

また、アプリダウンロード数の実績データ基に、観光客のターゲットを20代から40代の女性にあてた取り組みを行っている。これが重要なポイント！

観光ICT教育にも取り組んでいて、子どもたちも積極的にうきは市の観光PRをあいしている。

「道の駅うきは」はじゃらん道の駅ランキング一位（九州・山口で）。

【初見】

今回の視察をして、観光情報発信の方法としてICT技術の活用していかないと時代に取り残されて、地域間競争に取り残されてしまうのではないかと強く思いました。

すべてICT技術の活用がいいとは思いませんが、活用して三次市が活性化し、三次市の知名度があがって観光客が増加するなら積極的に活用していくべきだと考えます。